

スペインにおけるテニス選手育成システムに関する研究 ～ 10年かけて作られた Open Sports Club の事例から日本への示唆 ～

スポーツクラブマネジメントコース

5009A313-3 杉山 記一

研究指導教員 間野 義之 教授

1. 緒言

筆者は、2000年に大学を卒業後、10年間プロテニスプレーヤーとして、スペインを拠点に世界のトップクラスのコーチの下でトレーニングを積んだ。10年間に渡るプロテニスプレーヤーとしての経験を基に、スペインと日本のテニス界の相違を研究し、世界トッププレーヤーを育成する仕組みを考え、日本のテニス界、更にスポーツ界に貢献していくことが、プロ選手としての使命だと考えた。

2. 先行研究

「14歳以下のテニスプレーヤー」について舌ら(2006)は、各成長段階によって重要視されるべき留意点が異なることを述べている。

「デビスカップ選手の多面的トレーニングの実施とその効果」について蝶間林ら(1982)は「目標である理想的なスタイルは、ラケットを初めて握って最初の1～2年の間にイメージされるものであり、この時の、指導者の指導法(言葉、デモンストレーションなどの教示)、指導理念、また自分を取り巻く仲間(環境)の影響がその選手の基礎的な技術を形成する原点となる。言い換えると、この最初の出会いがテニスプレーヤーとしての基礎的スタンスに重要なインパクトを与える。」と述べている。

「スペインでのテニスのコーチングの開発における調査研究」について、高橋(2004)は「日本には非常に多くの情報が集まっているが、その中心にあるものは何か、何がベースにあるかということが欠如していて、表面的に行われていることだけを模倣している。」と述べている。

先述したように先行研究では、実績を上げた国の具体的育成方法を研究したものが少ない。

3. 先行研究

本研究では、スペインテニスにおけるトップ選手の育成制度及び、日本における選手の育成制度を比較検討する事により、スペインと日本の選手育成制度の違いを明らかにする事を目的としている。

そして、競技経験を通して感じている日本のテニス界の課題、そして、その発展の為に筆者が今後どのように貢献できるかを考察していきたいと考える。

4. 研究方法

スペインと日本のテニス指導法の相違点を明らかにするため、スペインでは、バルセロナにある Emilo Sanchez Vicario 氏が経営する Open Sports Club 及び、ATP ランキングトップ 100 位の 5 選手が所属する Barcelona Total Tennis を調査すると共に、練習環境を視察調査した。

選手の育成システムを検討するために、(1) 世界トップレベルのスペイン人指導者、(2) 日本人指導者、(3) 日本トップレベルの選手にインタビュー調査を実施した。

5. インタビュー結果

(1) 世界トップレベルのスペイン人指導者
世界で活躍する選手を育成していく為には、「身体的、精神的にタレント性のある選手を早期に発掘し、学校とクラブが連携し育成していく必要がある。」また、「スペインには、世界レベルのコーチが多く存在する為、若い選手を輩出していく仕組みが確立されている。」と述べている。

(2) 日本人指導者
世界で活躍する選手を育成する為には、「タレント性のある選手を早期発掘し、一貫性のある指導で強化していく必要がある。」また、「デビスカップ

のワールドグループで戦っていく為に、選手をクレイコートで強化していく事が重要である。」と述べている。

(3) 日本人トップレベルの選手

ATP ツアーで活躍する為に、「世界レベルの指導者からコーチングを受け、海外に活動拠点を移しツアーを転戦していく必要がある。」また、「フィジカル面での強化が重要である。」と述べている。

6. 考察

選手育成・強化に関するインタビュー結果		スペイン人指導者 日本人指導者 日本人選手		
タレント発掘	世界トップクラスの選手育成には、選手のタレント性が必要である	○	○	×
社会的環境の向上	世界トップクラスのコーチから指導が必要である	○	○	○
	国内の国際トーナメントを増やしていく	○	○	×
	一貫指導システムの構築	○	○	×
	クレイコートでの育成・強化が必要である	○	○	×
	資金面でのサポートが必要である	○	×	○

表 1. スペイン人指導者、日本人指導者、日本人選手の育成・強化に関する比較

(1) タレント発掘に関する示唆

世界で活躍する選手を育成するためには、フィジカル面とメンタル面において、タレント性のある選手を早期発掘し、世界レベルのコーチから指導を受けることが重要である。

(2) 指導者養成

世界トップレベルの選手の育成には、世界レベルのコーチからの指導が必要である。そのためには、自らが海外の ATP ツアーでの経験を積み、世界の情報を得る事が必要である。

(3) 国際トーナメントの増加

国内の国際トーナメントを増やす事で、世界中から選手が集まりトーナメントのレベルが上がり、世界の指導法の情報を得ることができる。

(4) 一貫指導

7 歳位からタレント性のある選手を発掘し、17 歳までの長期的視野にたって指導していく。18 歳から海外を拠点とし、世界のトーナメント (ATP、WTA) の舞台で結果を残すために活動していかなくてはならないと考える。

スペインやフランスのように、世界トップ選手を

輩出しているテニスクラブ、または、組織は、学校と連携し、育成・強化を行っている。

(5) テニス環境 (施設面)

選手をクレイコートで育成する事で、フィジカル面での強化ができる。また、テニスをより理解することができる。

(6) 資金面でのサポート

選手の育成・強化には、多くの資金が必要である。しかし、日本テニス協会は、選手の資金面でのサポートは難しい。そこで、テニス界の奨学金制度の実施が必要であると考えられる。

7. 結論

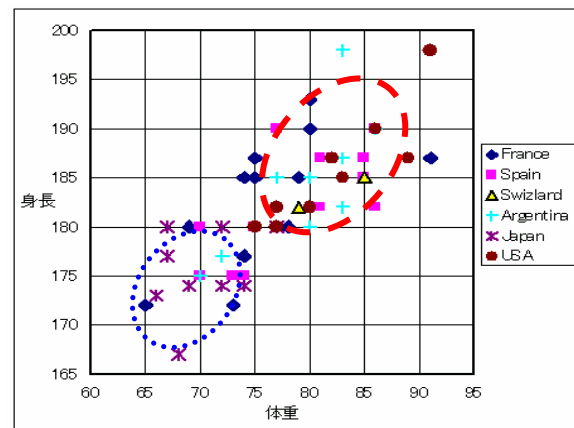


図 1. ATP ランキング 100 位以内の選手と日本人トップ 10 位以内の選手の身長・体重の分布図

分析の結果、世界のトップ選手育成のために、「身体的な要因を含めたタレント発掘」と、社会的環境面で、「指導者養成」、「クレイコートでの育成・強化」、「資金面でのサポートシステムの構築」の向上が必要であることが明らかになった。今後、日本のテニス界におけるタレント発掘は、身体的要因を含めた検討が重要になってくる。「日本国内でのクレイコートでの育成・強化」と「資金面でのサポートシステムの構築」は、日本のテニスコートがハードコートと人工芝のコートが過半数を占めている問題と、日本テニス協会に強化資金面でのサポートできる財源がないため難しいという結論に至った。

指導者の面では、スペイン等のテニス強国から指導者を招聘し、さらにレベルの高い指導者養成が必要である。